



ねんがじょう 年賀状になぜ「おめでとう」と書くの

しょうがつ 正月がめでたいから

日本では、年のはじめを「正月」といって、盛大にお祝いをしますね。なぜ正月をお祝いのようになったのでしょうか。

ずっと昔、日本では、1年を大きく分けると、穀物の種をまく春と、収穫をする秋の、2つの季節があると考えられていました。このことから、春のはじめが1年のはじめとされたのです。これは、現在のカレンダーでは、立春のころにあたります。

人々は、春が来ると、多くの生命が誕生することを喜び、お祝いをしました。つまり、正月というのは、すべての生命が生まれる春のことをさしていたのです。

「めでたい」ということは、「芽出度い(芽が出る)」からきているといわれています。この考え方がずっと、引きつがれ、現在まで続いているのです。

今でも、元旦になると、一家そろって、「明けましておめでとうございます」とあいさつをし、1年間の健康と繁栄をいのって、お雑煮を食べたり、おとそを飲んだりして、新年を祝います。それで、年賀状にも、「おめでとう」と書くのです。

めいじじだい 明治時代になってから始まった年賀状の習慣

年のはじめにあたり、親しい人たちと手紙を交換する習慣は、ずっと昔からありました。しかし、ごく限られた人たちだけのものでした。年賀状の風習が人々の間に広まったのは、明治6(1873)年に郵便葉書が発行されて、安い料金で年賀状を出せるようになってからです。その後、年賀特別郵便制度ができ、大量の年賀状がやりとりされるようになりました。(監修・田代 脩)

